

連番	分類	意見・質問	回答
1	協議会	<p>子宮頸がんについて、検診も大事であるが、子宮頸がんワクチンの接種率がかなり下がっており、問題となっている。子宮頸がんワクチンの積極的な接種勧奨は国が一時的にやめていたが、（その後）厚労省から「接種して問題ないのでやってほしい」という見解がでていいるはずである。しかし未だにマスコミ等では接種勧奨についてネガティブな報道が多いのが現状である。佐賀市ではもう少し積極的に接種勧奨してほしい。また、子宮頸がんの接種率が、手元にある資料には目を通した限りなかったようであるが、データはあるのか。</p>	<p>国から市町村へ、子宮頸がん予防ワクチンの積極的接種勧奨を再開する旨の通知はまだ届いていないので、佐賀市では現状積極的勧奨は実施していない。接種率はH30年度は0.4%であった。積極的勧奨をやめてからは、接種率は1%を切る数値で推移している。</p>
2	協議会	<p>乳幼児健診等に関連して、事務局説明の中で「相談会での待機が生じている」とあったが、数ヶ月も待たされるというのは異常ではないか。何か対策はとっているか。</p>	<p>相談会は、「子育て専門相談室」と「すくすく相談会」を実施しているが、「子育て～」には育児のやり方、子どもとのかかわり方が分からない方や、子どもの発達障害について認識がない方等を対象に紹介している。相談は増え続けていて、直近2年で実施回数を増やしてはいるが、現在も4ヶ月待ちの状況。「すくすく～」はどちらかというと早期診断、早期療育が目的であり、比較的待機はないが、心の準備ができていないお母さんにはじめから「すくすく～」を紹介するのは難しいため、はじめは「子育て～」を紹介することが多い。そのため、待機が生じていると考える。改善のため来年度工夫をしようと検討している。</p>
3	協議会	<p>（連番2の回答を受けて） 「すくすく～」は診断（＝発達障害の子を見つける）の方にあまりにも重きをおいている。しかし保護者の方が求めているのは「気になる子どもにどういう風に対応したらいいか」の指導だと思うので、相談対応の方向性が現状間違っている気がする。問題だと思う。検討してほしい。</p>	<p>トータルライフ支援の協議会をやっている中で、その中で小児科の先生方の意見を参考とし、親御さんが心配されるようなことがないよう、対応をとっていきたい。</p>
4	協議会	<p>佐賀市のがん健康問題は女性のがん（乳がん、子宮頸がん）が悪い。松尾委員と重複するが、子宮頸がんに関して検診受診率が高い一方で、死亡率が高いのは予防ができていないからだと考える。「勧奨」まではいかななくても一歩踏み込んで「意義の啓発」等してほしい。</p>	<p>（ワクチン接種の）副反応についてマスコミ等の情報があるが、佐賀市でも重大な副反応が出た方がいることから、佐賀市が率先して単独でということではなく、改訂案28ページにあるように国の動向等をもて検討していきたい。また、松尾先生のいわれた厚生労働省の通知は確認できていないので、まずは通知の有無を確認する。</p>

連番	分類	意見・質問	回答
5	協議会	<p>評価項目の改善率について、例えば「がん検診受診率」の部分であれば、受診率を基に計算しているが、他の市町村では改善率(数値)を出さず、矢印やA、B、C、Dの表記で評価している。数%受診率が上向いただけで何十パーセント改善した、というのは一般の人にはわかりにくいのではないか。矢印を使うとか、なくしてもいいのではないかと思う。</p>	<p>たしかに、受診率を割っているのでわかりにくい。対応を検討する。</p>
6	メール	<p>P3 課題のところの表に関して、治療中、未治療にわけてその後改善しているかどうかを記載されているが、治療中というのは内服薬をしているかどうかで分けられているのか、内服加療をされておらず、栄養指導・定期血液検査フォローの人もおられると思うがその方たちはどちらに入っているのか。</p>	<p>内服治療中である人が「治療中」と分類しており、検査のみ等の経過観察中の人は未治療に含まれております。</p>
7	メール	<p>今後の取り組みに関して、集団指導、個別指導ともに多くの回数をこなしてありすばらしいと思うが、集団指導に関しては「集団指導を受けに来る人」というのは意識が高い人が多いと思われる。特に仕事に従事している人や、農業・漁業をされている人などはなかなか異常があっても受診されづらい印象があるが、例えば準集团的指導などで農協や漁協やある程度大きな企業などと協力してその企業・農協などが主催するような形である職種の方たちで集団指導を行うことなどは可能なのか。</p>	<p>可能であり、進めていくべきことだと考えます。現在も健診受診勧奨を兼ねて自治会やまちづくり協議会等に出向いてミニ健康教育をしております。また、農協や漁協にも以前集団指導を行った経緯がありますが、今後も機会をとらえて実施していく必要はあると考えております。 (計画本編P36)</p>

連番	分類	意見・質問	回答																																		
8	メール	<p>P4 休養・こころの健康 自殺者数に関してやや増加傾向にあるとのことであったが、自殺を完遂してしまった人の今までの自殺未遂歴などはわかるのでしょうか。 今まで自殺の企図がない方の方がなくなる率が多いのであれば市民への啓発や相談窓口の充実が必要であるとおもわれます 今まで自殺企図を繰り返す人が最終的になくなる率が多いのであれば治療している病院との連携や、精神救急の受診のしやすさなどを改善していく必要があるのではないのでしょうか。</p>	<p>※別紙資料あり 自殺者の自殺未遂歴の有無をみますと、全体では自殺未遂歴のない人の割合が高くなっています。ただし、女性は男性に比べて自殺未遂歴のある人の割合が高く、年によっては自殺未遂歴がない人の割合を上回っています。 本市の自殺対策については、佐賀市自殺対策計画において、ご意見にあるような市民への啓発や相談窓口の充実、自殺未遂者への支援といった項目を盛り込んでいます。 今回の改訂にあたっては、自殺対策計画を策定し、計画間での整合性を図り計画を推進していく旨を記載しているところです。</p>																																		
9	メール	<p>P7 学童期・子育てに関して、課題のところで行動発達面に不安をもつ親が増えているとのことでしたが、実際にどの程度増えているのでしょうか。その中で専門的介入が必要であった割合と、実際は親の心配のみで特に問題とならなかった割合などはわかりますか。 核家族化が進んでいる状態ですが、ネット環境などの変化もあり発達障害や子育てに関する情報が錯綜しているため、心配となっている親は今後も増加傾向になってくると考えられるため、発達障害などの正確な情報発信が重要になってくるのではないのでしょうか。</p>	<p>行動発達面に不安を持つ親の相談会として「子育て専門相談室」「すくすく子育て相談会」を実施しており参加者は増加傾向にあります。</p> <p>※「子育て専門相談室」：言葉や発達のおくれや育児に不安を持つ等に関する個別相談 「すくすく子育て相談会」：ASD等発達障害の疑いが強い児についての個別相談 ・H26年～H30年度までの相談会の実績（人）</p> <table border="1" data-bbox="1032 839 1626 1126"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">子育て専門相談室</th> <th colspan="2">すくすく子育て相談会</th> </tr> <tr> <th>実人数</th> <th>延人数</th> <th>実人数</th> <th>延人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H 2 6</td> <td>84</td> <td>106</td> <td>69</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>H 2 7</td> <td>76</td> <td>127</td> <td>55</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>H 2 8</td> <td>95</td> <td>136</td> <td>65</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>H 2 9</td> <td>110</td> <td>135</td> <td>63</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>H 3 0</td> <td>115</td> <td>160</td> <td>63</td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table> <p>H30年度において医療機関等の専門機関を紹介した割合は「子育て専門相談室」で42.6%、「すくすく子育て相談会」で87.3%。全体では64%となっています。 なお、「子育て専門相談室」については、相談数の増加に対応するため、これまで回数を増やしてきたところですが、来年度からは更に回数を増やし、医師、言語聴覚士による相談日を設ける等検討しており、親の不安解消に努めていきます。</p> <p>正確な情報発信については、引き続き各種事業を通して情報提供に努めていきます。</p>	年度	子育て専門相談室		すくすく子育て相談会		実人数	延人数	実人数	延人数	H 2 6	84	106	69	84	H 2 7	76	127	55	78	H 2 8	95	136	65	82	H 2 9	110	135	63	85	H 3 0	115	160	63	70
年度	子育て専門相談室		すくすく子育て相談会																																		
	実人数	延人数	実人数	延人数																																	
H 2 6	84	106	69	84																																	
H 2 7	76	127	55	78																																	
H 2 8	95	136	65	82																																	
H 2 9	110	135	63	85																																	
H 3 0	115	160	63	70																																	

連番	分類	意見・質問	回答
10	メール	<p>P11 課題の部位のむし歯のない者の割合は減少傾向ではあるは増加傾向にあるでしょうか。 乳幼児・学童期におけるむし歯のない子供の割合はかなり改善しており素晴らしいと思います。今後も同様の活動を続けていくことで問題はないと思いますが、今後に関してですが、ある程度改善率があがってくれば改善しないところの分析も必要になってくると思います。 特にむし歯の数が多い子供の場合や虐待や、生活水準・家庭の経済状況などともつながってくるのではないかと考えられます。むし歯の数が多い子供をピックアップしていき個別に対応していく方法なども今後は検討してもよいのではないかと考えました(今回の計画年の間はまた現在の取り組みの継続でよいと思いますが)</p>	<p>3歳児健診のむし歯のない者の割合は、ご指摘のとおり「増加傾向にある」の誤りですので訂正します。</p> <p>1歳6か月児健診や3歳児健診時には歯科衛生士による個別指導を行い、希望者にはフッ化物塗布を行っています。特に虐待など養育環境に問題があると思われる児に対しては、健診結果をもとに健診会場にて、歯磨きや飲み物・おやつ摂取など生活状況に合わせた個別指導を実施しています。</p> <p>虐待や養育環境に問題のある家庭については、これまでも「佐賀市要保護児童対策地域協議会」と連携を取りながら取り組んでおります。来年度には「子ども家庭総合支援拠点」を新たに設置し、支援強化を行う予定としておりますので、そちらとの連携も図りたいと考えています。</p>
11	メール	<p>HPVワクチンに関してですが、現在佐賀県で報告・問題となっている副作用の数およびその出現の割合の数値なども分かれば摂取を推奨していくのにもっと説得力があると思います。特に他のワクチンとの頻度の違いなどもあればと思いました。</p>	<p>副反応疑い報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国報告 接種延人数：890万人 副反応疑い報告数2,584人（0.03%） ・佐賀県 接種延人数49,973人 副反応疑い報告数 4人（0.008%） <p>参考 四種混合の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国報告（H30年11月1日～H31年2月28日報告分 接種可能延べ人数1,443,577人中 販売業者報告 5人（0.00035%） 医療機関報告 25人（0.0017%） <p>国は、現在も積極的勧奨を控える方針であるため、市としても勧奨を控えているところで、ただし、定期接種としての位置づけですので、ホームページでは、国作成のパンフレットをのせる等周知をしているところです。</p>